

くじゅう沢登り～小田川右俣～

【報告者】 I 藤

【日時】 2019年8月25日(日)

【天候】 曇りや小雨 15℃

【参加者】 I 藤 (CL) Dr (SL) I 本 H 田 (SA)

《コースタイム》

入溪 9:10 - 冷鉱泉 10:30(休止) - 1270m 付近右俣分岐 11:15 - ガレ場 12:00 - 溶岩タワー (仮称)
12:30 - 扇ヶ鼻山頂 13:00 - 登山道 - 瀬の本登山口 14:20 - 駐車場 14:30

《 報 告 》

- くじゅうの川は二本あります。
 - ① 鳴子川・・・三俣山と大船山から流れ下る川
 - ② 小田川・・・扇ヶ鼻と牧の戸峠の間から流れ下る川
- 左俣と計画していましたが、ブッシュが酷く時間も要し、さらに天候が不安定なため、最短ルート
の右俣へ変更しました。
- 牧の戸登山口から 1.5 km 程下ると、久住高原ロードパーク付近に「阿蘇ジオパーク (自由の森)」と
書かれた看板があり、そちらの駐車場を利用しました。(10 台位のスペースは可能)
- 牧の戸峠から下ると、「九重橋」「小田川」と表記している橋があり、入溪地点は、橋の下なので、
分かりやすいです。
- 谷の変化はなく、沢歩きが主体となります。一通りの沢装備は必要であるが、アッセンダーは不要。
ロープは、20～30m の長さがあれば充分です。
- 硫黄の匂いがしてきますので、喘息持ちの方は、ご注意を。標高 1220m 付近に川床の石が白くみ
られ、冷鉱泉が沸いている場所もあります。
- 地理院地図では、表示されていない沢が出現してきます。地図の標高と地形は完全に一致しません。
(山あるあるネタ)
水量比で、本流と支流を観察しながら進むこと。(本流は水量が多い、川床も低い。私のように、
誤って支流に進まぬよう・・・苦い経験です！)
- 1470m 付近から一転して、ガレ場の岩相となります。阿蘇鷲ヶ峰の関門と類似しているような。(専
門家でないので詳しい事は分かりません。)
浮石や落石をなるべく動かさないよう、足裏全体を着地して歩くこと。
落としてしまったら「ラーク」と大声で叫んで周囲に知らせよう。(落石は隠さずに！決して悪い
ことではありません！)
下で待つ者は、フォールラインを見極めて、同場所での停滞を極力避けましょう。
- 山頂までの藪こぎは、30 分程続きます。ミヤマキリシマの枝が太くて、手間取り、歩きに苦戦しま
すが、素晴らしいピンクに染まることを願いながら、詰め上がる☆
GPS を活用するとスムーズに時短出来ます。
- ラストの扇ヶ鼻山頂では、雲仙普賢岳、英彦山や鷹ノ巣山、根子岳、などダイナミックな景色が広
がるので、お腹いっぱい楽しめます☆
- 私的な意見になりますが、下山用の靴も、沢シューズです。フェルトソールの上からチェンスパ
イクを着用すると、ぬかるんだ泥道や落葉の斜面に効きます。無敵で快感であり、オススメです☆

- ガレ場は、冬期に雪と岩がしっかり固まっていれば、MIX用ピッケルとアイス用バイルで練習が出来るかもしれませんね。



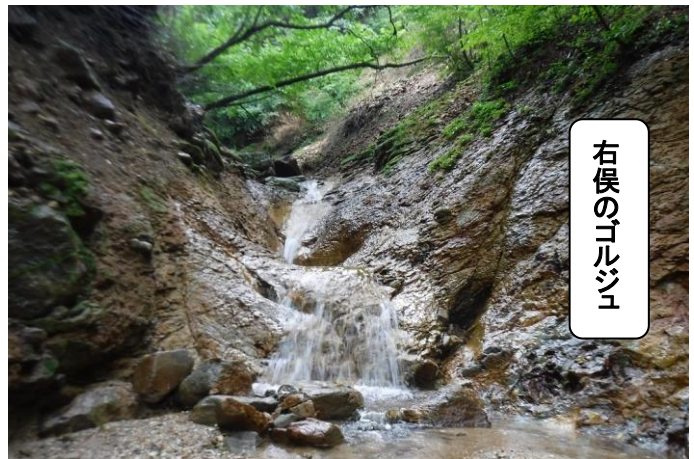
130m 付近の目印の岩



白くなった川床



白くなった川床の石



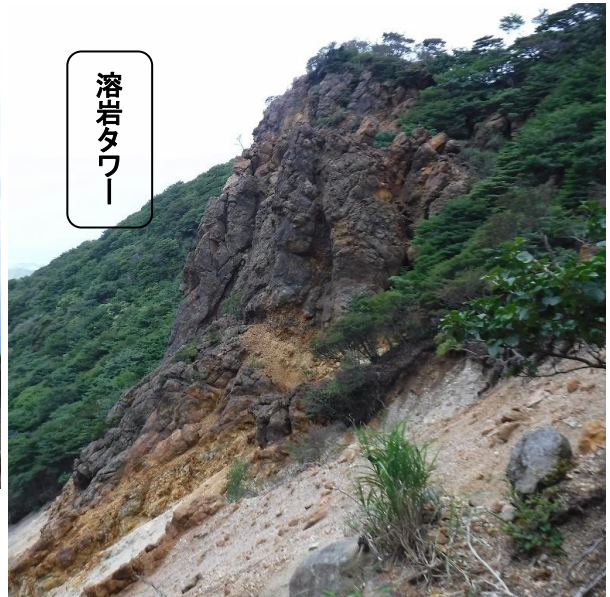
右俣のゴルジュ



ガレ場 取り付き



ガレからの眺め



《ルート図》

